

剣道 実施細則

- (1) 種 別 ア 団体戦の部(1チーム5名の団体戦)
選手構成
先鋒・次鋒 : 小学生低学年(1～3年生)
中堅・副将 : 小学生高学年(4～6年生)
大将 : 中学生
- イ 個人戦の部
小学生の部・中学生の部
- ※1 団体戦は1団1チーム、個人戦は1団につき小学生1名、中学生1名とする。
- ※2 補欠はおかない。
- ※3 メンバー変更は大会当日受付時まで申告した場合は認めるが、位置の変更は認めない。又、団体戦と個人戦間のメンバー移動は認めない。
団体戦、個人戦の両方に出場することはできない。
- ※4 低学年の者が高学年の位置で出場することは認めるが、小学生は中学生の位置に出場できない。
- (2) 試合方法 ア 団体戦 予選:各ブロックのリーグ戦
決勝:各ブロック上位チームによるトーナメント戦
- イ 個人戦 トーナメント戦
- (3) 表 彰 ア 団体戦の部の第3位までの団に賞状を、選手にメダルを授与する。
- イ 個人戦の部の第3位までの選手に賞状とメダルを授与する。
- (4) 競技規則 (公財)全日本剣道連盟剣道試合・審判規則並びに審判細則により試合を行う。
- ア 試合時間は3分間とする。延長戦は団体戦の代表者戦、個人戦のみ行い、時間を切らずに勝負が決するまで行う(文末記載の市剣連の「(延長戦・代表者戦等)での対応」(※)に沿って実施する)。
- イ 試合は3本勝負とする。但し、代表者戦は1本勝負とする。
- ウ 団体戦の予選の勝敗は、勝ち点、勝者数、取得本数により決する。
勝ち点は1勝＝2点、引き分け＝1点、1負け＝0点とする。
同勝ち点、同勝者数、同取得本数の場合、代表者戦とする。
団体戦の決勝の勝敗は、勝者数、取得本数により決する。
同勝者数、同取得本数の場合、代表者戦とする。
- エ 代表者戦は、両チームの監督もしくは代理者で抽選の権利を得たチームが、どのポジションの選手と対戦するかをくじ(欠場選手を除く)により決定し、勝負が決するまで行う。
- オ (公財)全日本剣道連盟から通知された『「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」を踏まえた試合・審判法の留意点について』に記載の【新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法】を適用する。
- ① 試合者は、鏑競り合いを避ける。やむを得ず鏑競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか引き技を出し、掛け声は出さない。(引き技時の発生は認める)。

審判員は鏝競り合いを解消しない場合は、ただちに「分かれ」を宣告する

- ② 審判員の試合場への入退場の際は、1メートル以上の間隔を空けて行い、副審は試合開始線の外側を通り、定位置まで進む。
 - ③ 合議は1メートル以上の間隔を空けて行う。
 - ④ 試合終了後に当該試合の反省を行う場合は、1メートル以上の間隔を空ける。
 - ⑤ 審判員は、試合時マスクを着用する。また、各自の審判旗を持参して使用する。
- 各試合会場の審判員控席にアルコール消毒液を設置し、手指消毒を行う。

- (5) その他
- ア 開催要項を必ず確認すること。
 - イ 選手は試合時には面マスク及びマウスシールド、それ以外(開閉会式中、試合開始までの待機中等)は家庭用マスク、もしくは面マスクを着用すること。
 - ウ 別紙の「感染拡大予防ガイドライン」に記載の内容を事前にご理解いただき、各予防策を遵守すること。

※ 延長戦(代表者戦等)での対応

試合時間3分 → 延長2分 → 延長2分 → 〈小休止(深呼吸をする程度)〉
→ 延長2分 → 延長2分 → 〈面を外しての休息・給水(3分)〉
→ 延長2分 → 延長2分 → 〈小休止(深呼吸をする程度)〉
→ 延長2分 → 延長2分 → 〈面を外しての休息・給水(3分)〉
→ 試合の続く限り繰り返す。